びわスポキッズプログラムにおけるメインリーダーの指導意識

西田　華菜美　(競技スポーツ学科　コーチングコース)
担当教員　白木孝尚

キーワード：メインリーダー　指導　意識

１．緒言

近年，子供の体力・運動能力は，昭和60年ごろから現在まで低下傾向が続いており，現在は体格が大きくなっているにも関わらず，50メートル走やボール投げの成績は低下している(1).

本学はスポーツを通して「運動が楽しい」ということを体感し，スポーツセンスやスポーツマインドを磨いてもらうことを目的として「びわスポキッズプログラム」を開催している．キッズ巡回指導とキッズフェスティバルを開催し，本学の学生がキッズリーダー(指導者)として活動している．キッズリーダー研修会に参加する学生でも巡回指導やフェスティバルに参加しない学生がいる．また，参加している学生の中でメインリーダーを希望する学生は少ない．そこで本研究では，経験の多いメインリーダーを対象に，プログラムを企画・運営していく中で子どもたちに対する接し方や指導意識について調査を行い，リーダーとしての成長過程や子どもを指導する上でのポイントを質的な観点から検討することを目的とした．

２．研究方法

（1）調査対象

びわスポキッズプログラムでメインリーダーとして活動している本学の学生 5名を対象とした．

（2）調査方法

・筆者作成のアンケート
・指導日誌調査
・インタビュー調査

３．結果ならびに考察

メインリーダーの指導意識として，まずメニューの組み立て方・内容について，園の先生とコミュニケーションを取ることで園の要望に見合ったメニュー選びができると考えられた．また，どの被験者も子どもたちに指導をする上で，例えばメニューの内容をストーリー性にするなど，子どもたちがメニューに入りやすいように工夫していることが分かった．

次に，サブリーダーについて【メニューを理解していない】【メニューを把握していない】といった問題点が挙がったことから，事前に指導メニューを丁寧に簡潔に指導することで，サブリーダーがメニューを理解し，指導の進行がスムーズにできる可能性があると推察された．以上のことから①園の先生とのコミュニケーション、②メニュー作成の工夫、③サブリーダーとの連携、これら3つを心掛けることでより良い指導ができると考えられた。

またアンケート，インタビュー調査の結果，被験者それぞれの指導意識や改善する点が異なることから，メインリーダー同士で意見交換を行うことで互いの意見を共有し，指導の質を高めるため，メインリーダーとして成長するための情報を得ることができると推察した．

４．引用・参考文献

１)文部科学省（2002）中央審議会(第 24 回)配布資料５－２